

スタディクシア概要

1. 団体名・由来

StuDXIA

- ・ **読み:**「スタディクシア」
- ・ **意味の要素:**
 - ・ **Stu:** Student (学生)
 - ・ **DX:** デジタルトランスフォーメーション
 - ・ **IA:** AI (人工知能) や Intelligence Amplification (知能増幅)
- ・ **背景:** 学生という立場だからこそDXやAIに挑戦し、その可能性を広げたいという思いを名前に込める。

2. 理念・コンセプト

1. **理念 (Philosophy)**
 - ・ 「DXやAIは専門家だけのものではなく、誰もが活用し社会を変えられる」
 - ・ 文系・理系問わず、未経験でも学習と実践を重ねればDXを推進できると信じ、学生の力で社会課題の解決を目指す。
2. **コンセプト (Concept)**
 - ・ 「学生 × DX × AI: 若者の柔軟な発想と行動力で、日本の遅れを変えていく」
 - ・ デジタル技術に詳しくなくても、まずは学んでみる・小さな成功を作ってみる。その積み重ねが大きな変化を生む。
3. **キーワード:**
 - ・ 「**学び続ける姿勢**」: 学生だからこそ常に吸収し進化する。
 - ・ 「**無償or低コスト支援**」: 企業や自治体にとって導入ハードルが高いDXを広げたい。
 - ・ 「**若者らしさ**」: 飛び込んでいく行動力、失敗を恐れないチャレンジ精神。

3. ミッション (Mission)

- ・ 「未経験からDXやAIを学び、社会に役立つ実践を行う」
- ・ **具体的には:**
 1. **DXの啓発:** SNSや勉強会でDX・AIの基礎をわかりやすく伝え、興味ある人の入り口を作る。
 2. **実案件での支援:** 過疎化地域や中小企業などアナログが残る現場に足を運び、学習したDX技術は無償・低コストで導入サポート。
 3. **学生同士の学び合い:** 文系・理系問わず、メンバー全員で情報交換し合い、成長プロセスを共有。

4. ビジョン (Vision)

- ・ 「誰でもDX・AIを武器に社会をアップデートできる未来を創る」
- ・ **中長期的な目標例:**

- ・ 1年後: 地方や中小企業10社へのDX導入成功事例を積む
- ・ 2年後: 全国100人以上の学生仲間がStuDXIAの学習ロードマップを実践
- ・ 将来: 「DX・AIといえばStuDXIA」くらいの影響力を持ち、日本のITリテラシーを底上げする。

5. 活動内容・ストーリー

1. 学習・実践プロセスを発信
 - ・ メンバーが未経験からDXやAIを習得する過程をSNSやブログでリアルタイム共有。
 - ・ 「文系だけどRPA構築に挑戦」「ChatGPTでこう変わった」など生々しいストーリーを展開。
2. 現場でのDX支援・地方リサーチ
 - ・ 過疎化地域の商店街や中小企業に声をかけ、「紙中心の事務作業を自動化」「DX導入コンサル」などを学生の立場で手伝う。
 - ・ 成功・失敗含めて得た学びを発信し、他地域にも横展開。
3. ロードマップ・学習プログラム公開
 - ・ StuDXIA独自の「未経験から半年でDX推進者になるためのロードマップ」を整備・公開し、メンバーや外部の学生にも活用してもらう。
 - ・ SNSを通じて**「私たちもこのロードマップを実践中」**とアピールし、応援や共感を得る。

6. 目標・マイルストーン

- ・ 短期 (3～6ヶ月)
 - ・ 最初の支援実績を1～2件作り、SNSやクラウドファンディングで世の中に発信。
 - ・ メンバー数を最小限 (5～10名) 確保し、強い結束を形成。
- ・ 中期 (1年)
 - ・ 地方の自治体・企業へのDX導入10社達成。成功事例レポートをまとめ、さらにクラファン等で支援拡大。
 - ・ 学習ロードマップをアップデートし、未経験者でも再現可能な手順を確立。
- ・ 長期 (2年～)
 - ・ 学生メンバーを全国レベルで100名以上に拡大 (他大学へも広げる)。
 - ・ 大企業や自治体との大型プロジェクト実施、メディア取材や講演などでStuDXIAの存在感を高める。

7. 名前・ブランディングに関する一言キャッチコピー例

- ・ 「StuDXIA (スタディクシア) : 未経験から、DX×AIで未来をつくる学生団体」
- ・ 「学生 × DX × AI —— 挑戦する若者たちが日本をアップデートする」
- ・ 「文系でも理系でもない。誰でも学べるDXを、ここから証明する」

StuDXIA（スタディクシア）は、「学生」「DX」「AI」の3要素を組み合わせた新しい学生団体で、**未経験からでもDXやAIに挑戦できる環境をつくり、社会を変える力となることを目指します**。無償・低コストで地方企業や中小企業を支援しながら、自分たちも学び成長するという姿勢がポイント。**SNS発信やロードマップ公開を通じて、DXに関心のある学生・企業・自治体とのつながりを広げ、最終的に日本全体のデジタルリテラシー向上に貢献できるよう活動していく構想です**。